



## 日本タイプと 北欧タイプの ロータリー

第2660地区ガバナー(大阪)

熊澤 忠躬 守口

ブラウンR I会長の「カルガリー挑戦」が揚げられ、目標2005年までに200万人への増強は夢ではなさそうです。2週間報告の具体的推進策が各地区で実施され、増強成果は着々と表示され始めました。さて私は、最近ロータリアンの数、経費について興味のある事実に気がつきました。これは南スウェーデン地区とのG S Eによって得た知識によります。世界中を大分して、日本型と北欧型とその中間型との異なった性格をもつロータリーに分類することができます。

日本型…人口10万に約1 R C、平均60~70人の会員。入会金・約30万円。年会費・40万円。

北欧型…人口10万に約35 R C、平均60人の会員。入会金・なし。年会費・約6万円(両国の物価はほぼ同様)。米国の場合は、ほぼこの中間で、どうも世界の主流は北欧型に向いているようです。

つまり日本型はボランティアを支援するエリート集団、北欧型はボランティアを実行する社会(家族)集団といえそうです。両者の差の要因としてまず教育で、北欧は子供の時から教会でボランティアを身につけ、成人して余裕ができればロータリーに入ります。日本ではむしろエリート教育が先行しています。次に税制・政治の差異であり、北欧では福祉中心で透明でありますが、日本では福祉は後まわし、さらに不透明であります。

教育・政治を論ずるのをさけて、現在われわれが北欧型に近づく可能性はあります。それはローターアクトを増強しロータリアン候補者として教育すること、現実的には、女性会員に理解を持ち増強を推進することです。(単科大学)